

最新鋭の高度な医療サービスを ホテル並みの快適空間で提供

「最高の安心と最新の医療」を基本理念とする四谷メディカルキューブは、この5月にオープンしたばかりの都市型クリニック。そのアメニティ空間作りにヤマダ電機が一役買っている。

5月にオープンした四谷メディカルキューブ



医療施設とは違う、まったく新しいアメニティ（快適性）の実現を目指した」という。

東京23区内は大学病院や大規模病院、有名クリニックなどが林立する“医療激戦区”。その中で新規オープンしたクリニックが勝ち残るためには、医療や関連設備などでいかに新しいサービスを打ち出すかがポイントだ。クリニック経営においても、差別化戦略は他のサービス業と少しも変わらないのである。

3つの最新医療サービス

四谷メディカルキューブの主な最先端医療サービスは次の3つだ。

最新検査機器を備えた健診センター

内視鏡外科手術

女性のさまざまな悩みに応える
ウィメンズクリニック

まずの健診センターでは、癌検査装置PET-CTやMR装置、マルチスライスCT等の最新鋭機器を備えている。特にPET-CTは苦痛なく全身にわ

シティホテルのような空間

「医療関係のお客様はニーズが多様。どんなご要望にも、迅速にお応えできるよう、こまめに顔を出させてもらっています」。

こう語るのはヤマダ電機法人事業部横浜本店営業所の若林慎二所長だ。厚木店や東京本店の所長を歴任してきた若林所長には医療関係の顧客が多く、これまで数多くの病院やクリニックへの納品を手がけてきた。そんな若林所長が「今までの医療施設とは、まったくイメージが違う」と驚かされたのが、この5月にオープンした「四谷メディカルキューブ」(東京都千代田区)である。

同クリニックは医療法人社団あんしん会が運営。JR四ツ谷駅から徒歩

5分という都市型医療センターだ。ベッド数は19床と大きな規模ではないが、その第一印象は確かにクリニックとは思えないシティホテルのような施設である。

例えば建物の最上階には、著名なフランス料理シェフ・三國清三氏と業務指導契約を結んだ院内レストラン「ミクニマンスール」がある。ここでは入院患者への食事を提供し、外来患者も利用できる話題になっている。

あんしん会の成瀬岳洋常務理事は「クリニックとして最新医療の提供は、もはや当たり前のこと。その上で、今までの

病室には26インチ液晶テレビを設置





ホテルのような1階フロント(右)や廊下



たって小さな癌の早期発見に有効な検査装置で、国内でもまだ数カ所にしか設置されていないという。

一方、の内視鏡外科手術は、腹腔鏡や胸腔鏡を用いた、患者の手術負担が軽い「きずの小さな手術」だ。社会復帰の早い手術として欧米では広く普及している。

また、のウィメンズクリニックは、体や心など様々な疾患に悩む女性が気軽に相談でき、必要に応じて適切な治療が受けられる「女性専門家による女性のためだけのサービス」である。ここではリラクゼーションのためのエステやアロマセラピーなども提供している。

これら医療サービスに従事するスタッフにも、国内トップクラスの医師陣を迎え「最高の安心と最新の医療」という基本理念を具現化した体制となっている。

ただし、入り口には、診療時間や診察内容などを記した看板がなく、知らなければそこがクリニックということも分からないだろう。

もちろん一般外来患者の診察にも対応(予約制)するが、その一方で医療連携による患者対応を重視している。

医療連携とは医師や病院間の患者紹介活動だ。医療の世界では、より専門的な治療が必要な患者を、その

治療を得意とする病院へ紹介することがよく行なわれる。これに積極対応し、患者本位の医療を提供するためには、明確な特徴を持ったクリニック経営が重要だ。

四谷メディカルキューブがPET-CT等による検査システムの充実や、内視鏡外科手術など最新医療にいち早く取り組んでいるのは、そのためでもある。さらにいえばホテル並みの施設も、「紹介されるのなら、四谷メディカルキューブがいいと思っただきたい」(成瀬常務理事)からである。

液晶テレビは必需品

ヤマダ電機の若林所長が四谷メディカルキューブに関わったのも、アメニティに関してだった。40台近い液晶テレビをはじめ、掛け時計や複合機、冷蔵庫などをオープンに合わせて納品したのである。特に液晶テレビは四谷メディカルキューブには不可欠な設備だった。

患者にとっては病室やロビーなどいたるところで最新型テレビが見られるメリットがある。一方、クリニックにとっては設置スペースのコンパクトさがメリットだ。場所をとらない液晶テレビは効率面で不可欠である。スタッフルームなどにもすべて液晶テレビが設置されている。

「先端イメージの提供とスペースの有効活用。この両面で液晶テレビは最適だった」(成瀬常務理事)

もっとも、これだけの近代的なクリニックだけに、若林所長は機器の搬入や設置にことのほか神経を遣ったようだ。特に液晶テレビの壁掛け工事には必ず立ち会い、最後のチェックまでを見届けたという。「液晶テレビの先端イメージを工事ミスで台無しにできない」からだ。

「無事に設置できホッとしています」という若林所長は、5月のオープン後も@オフィスを介した消耗品類の受注・納品や追加機器の相談などに追われているとのこと。四谷メディカルキューブとヤマダ電機との関係は、ますます深まりそうである。



横浜本店営業所の若林所長
(ヤマダ電機横浜本店営業所の連絡先は、
TEL 045-820-5666 / Eメール jb-yokohama@tecc.ne.jp)